

POCWS-01(要旨) 日本医学教育学会大会プログラムの将来

司会：平形 道人（慶應義塾大学） 錦織 宏（名古屋大学）

日本医学教育学会学術大会(大会)は、「医学教育」を学問する学術交流とその実践を学ぶFaculty Developmentの場である。本委員会は、大会を「より楽しく、オープンに、科学的に」するために、「継続性と実現性」をAgendaとして、プログラム・財務：国際・ICTタスクフォース(TF)を立ち上げ、大会主催校(大会校)と議論を重ねてきた。このワークショップでは、各TFの活動内容や展望を報告するとともに、参加者との自由闊達な意見交換により、「実りある大会像」を考える。

プログラムTF: 大会プログラムの質向上と会期を超えた大会間でのネットワーク構築を目指し、1)学会抄録査読プロセスのマニュアル化と医学教育専門家/国際化委員会との連携、2)大会準備・運営スケジュールのガントチャート作成、3)大会校と各委員会・部会とのネットワーク構築、4)大会校のプログラム作成支援、を行ってきた。これらの具体的な取組を共有し、プログラムの将来を創造するための意見交換を行う。

財務TF: 学術大会収支を安定化するために、その課題を明らかにし、長期的視野に基づいた改善計画を立てることは重要である。その端緒として、財務内容を可視化し、継続的な検討を可能とするために、収支項目の統一化を図り、将来も共用できる収支細目表を策定した。これまでの活動状況を報告し、大会財務の問題点、今後の方向性を意見交換する。

国際化TF: 医学教育の国際化のため、本大会では国際化委員会や各大会校により、著名な海外医学教育者の招聘講演、韓国との交流、International sessionが企画されてきた。コロナ禍の影響により、2年間の現地対面開催が困難となったが、これは大会国際化の在り方を考える好機ともいえる。これまでの歩みを踏まえ、今後の展望を参加者と共に考える。

ICT TF: 学会運営のデータ化を提案している。大会は事前参加申し込み制ではなく、当日に参加費を徴収する形式をとってきたため、参加者の属性も明確でない状況であった。参加者データの活用により、多様な参加者へのアプローチが可能となる。特に、教育に興味のある学生や研修医、専攻医についてもデータを介して、アプローチしたいと考える。

ファシリテーター： 鋪野 紀好（千葉大学）
Kiyoshi Shikino (Chiba University)

森 茂久（埼玉医科大学）
Shigehisa Mori (Saitama Medical University)

清水 郁夫（信州大学）
Ikuo Shimizu (Shinshu University)

橋本 忠幸（橋本市民病院）
Tadayuki Hashimoto (Hashimoto Municipal Hospital)